

手書きの壁新聞を発行

～地域住民に信頼されて～

石巻市 平井美智子さん60代

2021年11月6日

聞き手 千葉直美

石巻日日新聞の記者をしていた。あの日、地震と津波で電気が止まり輪転機が水没、新聞を印刷できなくなってしまった。3月12日から手書きで新聞を作り始めた。ガリ版の道具がほしかったが、なかったので、壁新聞となった。3月13日には大手の新聞社が新聞を出し始めていたが、石巻の地元紙としては、手書きで新聞を作ることしかできなかった。石巻が全滅という噂を聞き、心が折れた、

震災直後は暗いテーマばかりで、地元紙としては希望が持てる明るいニュース、物資やボランティア等の地域密着の情報を発信した。地域の住民との信頼関係があったので、避難所やコンビニに張った手書き新聞を読んでもらえたと思う。自分は新聞をとにかく作ることにだけに気持ちを集中させた。情報は光が、使い方次第で凶器にもなるので、きちんと取材し、正しい情報を集めた。外国人が犯罪を犯しているとのデマがあった。しかし、それは誰かが聞いたことを話し、実際に本人が見たわけではない。

3月11日、地震直後に日和山で取材した。雪が降って眼鏡がくもり、津波の襲来をよく見ていない。神様がみせなかったのかも。写真をとり、市役所の記者クラブへ行き、2日間、数百人の市職員のほか、避難者300人ととどまった。11日の夜から、そこで取材をはじめ、メモを12日に同僚の記者に渡す。生活をどう立て直すかといった被災者の目線で取材を続けた。

仕事があったから、頑張れた。やらなければいけないことがあり、仕事はよりどころだった。情報を届ける使命があり、仕事が生きがいである。人と会うのが好きで、取材したことを伝えたい気持ちが強い。書いたことが表現され認められた時は、達成感がありモチベーションになる。

24歳からメディアに関わっているので、もう36年になる（聞き書き当時）。男女関係なく実力で勝負の世界なので、ジェンダーを考えたこともなく、セクハラや嫌がらせを受けたことも記憶になく、受けたとしてもあまり気にしない性格なのかもしれない。ジェンダーって何？って、逆に聞きたい。世の中はどんどん変わってきていて、男性も子育てし仕事を両立する時代になっているのは実感する。3人姉妹の真ん中で、わりとしっかり者として育った。57歳で結婚、パートナーの大切さを実感している

石巻は、小さい街だけといろいろあって楽しい。人の気持ちがわかる寄り添える力のある記者になりたい。私は2018年から編集の責任者になっている。